

春に感謝する祭 じじぐれ祭

- 「じじぐれ祭」は、毎年5月5日に、福井市（旧美山町）河内の住吉神社で行われる祭りです。
- 「じじぐれ祭」は、春の喜びを感謝する祭りです。「じじぐれ」とは、「じじふり」がなまったもので、「野山の春の気配に心が奮い立つ」という意味です。
- 伝承によると、「じじぐれ祭」は、この地区の上比丘尼の「神の森」から、現在の小谷の山に創建された社殿に神さまをお移した、遷座の儀式に由来しているものとされています。
- 昭和42年に県無形民俗文化財の指定を受けています。

出所：美山町50周年記念誌「美山50年のあゆみ」（平成18年1月刊行）

じじぐれ祭の開催場所(福井市河内)



福井市中心部から国道158号、県道2号武生美山線、国道476号を経て現地 約30km

じじぐれ祭 の一日

柴神輿の材料の採取



当日の午前6時ごろ柴神輿の材料（フナ、シデ）を採集します。また、丸太で井桁を組み、柴神輿の台座を作ります。

真ん中の赤い花束 三体の依代の花束



台座にフナやシデの枝をさしこみ、神社が祀る三体の神様を、三体の依代よりしる。シヨウワブ、ゴアジ、ヤマブキの花束とし、木の構につけて、柴神輿の中央に打ち込みます。

柴神輿は、フジのつるなどで縛って作り、釘や縄は使しません。

(注) 依代・神霊かよりつく対象物のこと

出発前の柴神輿



午後2時
神主による祝詞があげられ、神酒を柴神輿にひりかけ、神輿が出發します。

柴神輿の巡行

午後2時半ごろ柴神輿を担ぎ、鳥居と並行する櫛（ケヤキ）の巨木の間をくぐり、旧道、旧家を廻ります。



「千代、千代、千代の花の都の手に手をこめて、山ぞれ、ぞ、わ、か」の御神歌を歌いながら柴神輿をゆすり、さし上げ、村中を舞います。

じじぐれ祭りの踊り



午後3時過ぎ
神社に戻ると、じじぐれ祭りの糸舞、踊り、太鼓演技があります。

三体の神の依代の詣り抜き



午後4時半ごろ
柴神輿の解体神事を行います。太鼓を台図に、若衆達は、神輿に飛び乗り、神輿の中央にある三体の神の依代を払い抜きます。